

図 3.7 グラウト注入結果

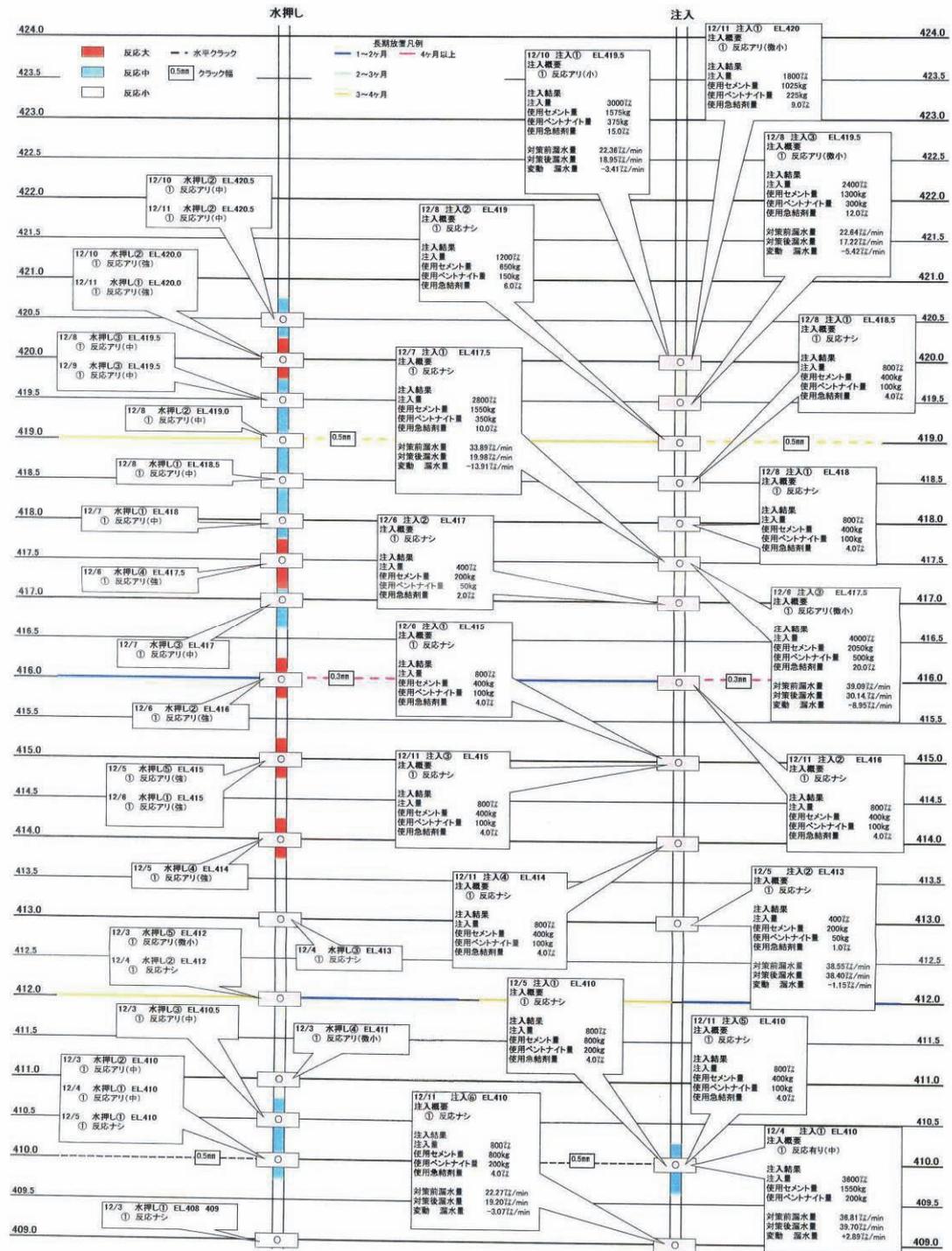


図 3.9 拡散防止箱による対策実施例

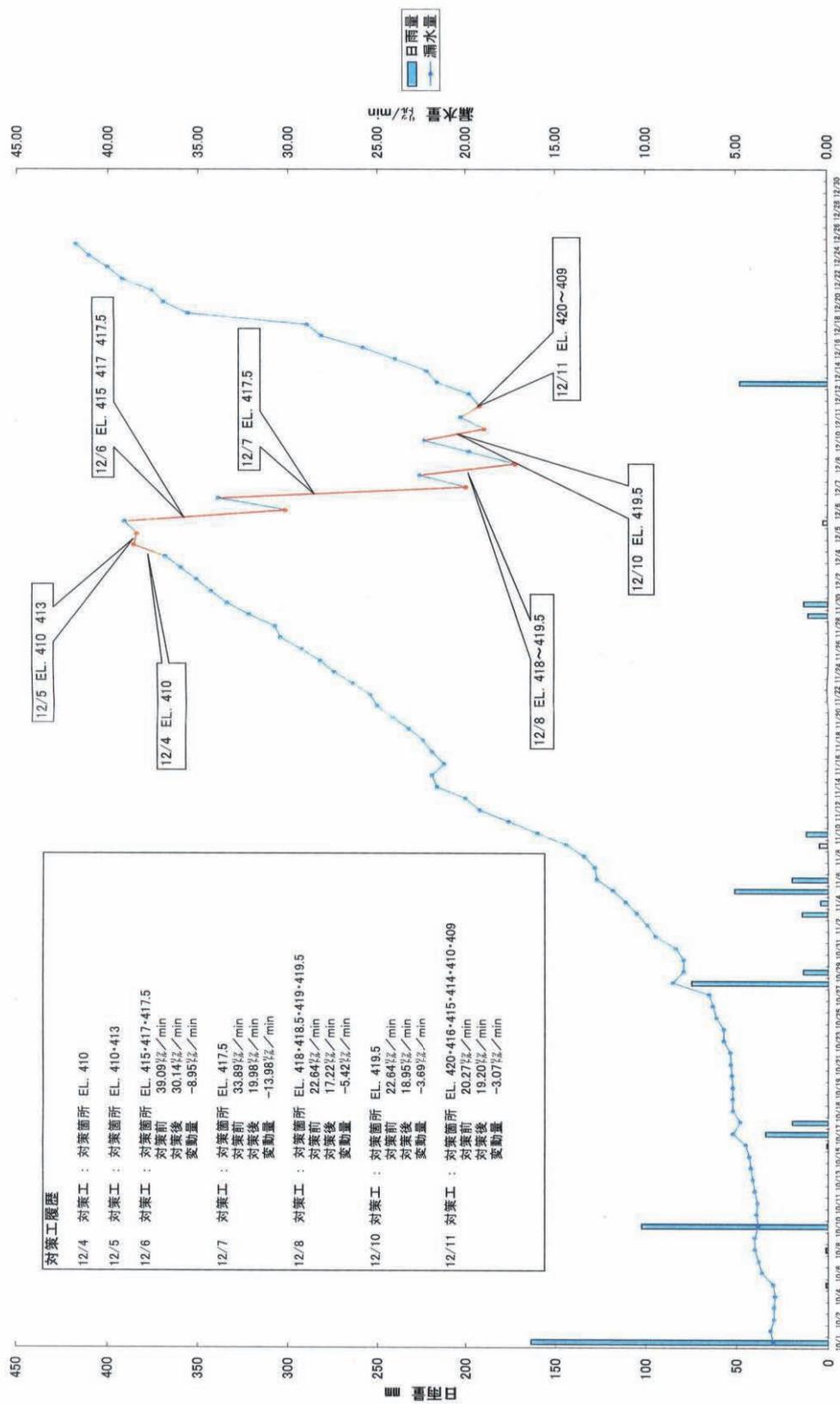


図 3.10 拡散防止箱対策と漏水の関係例

4. まとめ

長島ダムの試験湛水時のジョイントからの漏水量はサーチャージ水位時に最大 4,400 l/min となり、試験湛水終了後に、本対策として横継目および水平打継目に対してセメントミルクの注入を実施した。その結果、再度水位を常時満水位まで上昇させた平成 14 年 3 月時点の漏水量は 745.4 l/min 程度に減少し、所期の目標を達成したものとする。今後は当面、継目別の漏水量の観測を継続するなどして、慎重に管理を進める予定である。